

名古屋大学大学院
経済学研究科

教 員 紹 介

平成28年 6 月

教員と演習の紹介

- ①教員の研究テーマ
- ②演習の紹介・メッセージ
- ③演習のキーワード

大学院では、講義を履修し、論文指導を受けることが必要です。教員の研究テーマは以下のとおりです。

なお、年度によっては開講されない場合もあります。

社会経済システム専攻

■安達貴教

- ① 私は、ミクロ経済学の諸概念に依拠し、特定の経済問題を考察することを通じて、市場経済の機能、そして、市場経済における非市場的要素の持つ役割を理解することに関心を持っている。最近の個別のテーマとしては、価格差別や抱合せ販売など、不完全競争下における価格戦略、上流企業と下流企業との垂直的関係、及び、両面的プラットフォームといった問題に関心を持っている。分析手法としては、紙と鉛筆だけの理論分析、コンピュータを使ったシミュレーション分析、そしてデータを用いた実証分析のそれぞれを問題に応じて適宜組み合わせている。
- ② 演習の科目名はカリキュラムの都合上「価格理論」となっているが、「産業組織」をテーマとし、英語の教科書及び英文論文の論読と討論を中心とする。また、各参加者の研究状況に応じて、個別の研究報告も求め、次のステップに進むために何が必要か、何をすべきかを確認する機会ともしたい。なお、学生の個別指導に関して述べると、私は、関連分野の他教員と緊密な連携を行うことを基本としている。
- ③ 応用ミクロ経済分析 実証ミクロ経済分析 応用ゲーム分析 プログラミング

■荒渡 良

- ① 経済の構成員が政策を投票で決定するという政治経済学の枠組みを用いて、年金や所得再分配政策などの社会保障政策についての理論研究を行っている。近年では、教育コスト、高齢化、借入制約などの要因が、投票によって選ばれる社会保障政策に与える影響及び、決定された政策が所得不平等度や経済厚生に与える影響について研究している。
- ② 本演習は動学的政治経済学の分析手法を理解することを目的とする。1年次の演習は各自がテーマに沿った論文を報告し、それに対して議論・検討を行うという形式で進められる。2年次には、1年次に得た知識を基にして修士論文の執筆を行う。
- ③ 動学的政治経済学 社会保障制度 公共経済学

■藤田真哉

- ① 所得分配と経済成長、景気循環のあいだの関連性について、ポスト・ケインズ派経済学やレギュレーション・アプローチなどの諸理論に基づき研究しています。
- ② 演習の一年次は、現代の古典派政治経済学や制度経済学の基本的な諸文献を輪読します。二年次は、参加者が各自の研究について報告し、議論を重ねることを通じて、修士論文を作成します。
- ③ ポスト・ケインズ派経済学 レギュレーション・アプローチ 賃金主導型成長 資本主義の多様性

■福澤直樹

- ① 現在多くの先進工業国では、市場経済を基調としながらも社会保障が不可欠の国家機能として制度化されています。このような福祉国家体制が、前近代的社会から今日の高度工業化社会にいたる経済史的展開の中でどのように形成されてきたのかを経済社会の構造変動の観点から研究しています。対象としては国家政策だけでなく、自治体や教会・各種慈善団体等の中間的、乃至私的セクターなどを総体的に把握しつつ近現代の福祉社会の展開の論理について考えています。さしあたりは主にドイツを研究対象とし、最も古い歴史をもつ同国の社会保険を中軸に研究を進めています。
- ② 演習の内容は西洋経済史で、参加者の希望に応じて、社会政策史・社会保障史などにも立ち入ります。その上で参加者が各自の関心に基づき報告を行い、それをうけて討論をします。現在多くの国は様々な社会経済問題ないし公的財政などの問題を抱え、そこにおいて社会保障の縮小的改革や増税（或いは減税）などが議論に上げられています。それはそれで当然のことでしょう。しかしここでは、歴史的に見られた市場経済のもとでの経済過程への社会的調整の根拠や範囲、現代の経済社会における「共同性」などについての明確かつ論理的な理解に支えられた議論が展開されているのでしょうか。こうした問題意識などをもちながら、社会政策（或いは社会的な調整）が近現代国家ないし経済社会にいかに関わり込まれ、機能してきたのかを皆で議論しながらあらためて考えていきましょう。
- ③ 西洋経済史 ドイツ経済史 社会政策史 社会保障史 社会国家 福祉国家 福祉社会

■花崗 誠

- ① 産業組織、企業組織の理論的な研究を専門としている。その中でも特に、インセンティブの理論―すなわち、「適材適所」を実現するために必要な私的情報、生産活動における望ましい貢献努力などを、自発的に引き出すインセンティブを与える仕組みとしての組織、制度、または契約の理論的研究―に関心がある。
- ② ミクロ経済学、ゲーム理論、および契約と情報の経済分析の基礎的な知識をテキストや主要な論文の輪読を通じて習得すること、および各自のテーマに従った研究報告とそれについての討論を通じて新しい論点を構築することを目指す。
- ③ インセンティブ 契約と情報の経済分析 産業組織 企業組織 ゲーム理論

■木越義則

- ① 私の専門はアジア経済史です。とりわけ19世紀から20世紀前半にかけての貿易、海運、市場、物価、工業など比較的数字データで検証可能な分野に、経済学的な視点からアプローチすると同時に、パソコンで大型のデータベースを作成することを得意としてきました。オンラインですでに綺麗に整形された経済統計は、少なくとも1960年代以前についてはほとんど入手できません。過去の数字情報は、図書館や資料室の奥に設置された電話帳みたいに分厚く、独特の古紙のにおいが充満する書籍のなかに納められています。これをコツコツとパソコンに入力する地味な作業に人生の大半を費やしてきました。作成したデータを利用して、清朝後期から中華民国の中国で、対外貿易が拡大することで国内の広域的な流通構造がどう変化してきたのかを分析しました。今後は同じ視角から同時期の東南アジア、インドにも手を広げながら、近代アジア交易図を再現できればと考えています。
- ② 演習では主に本と史料を読む訓練が中心となります。まずは経済史の重要な研究書（邦訳がない場合は原書）を輪読することで、経済史学の中心的な論点、実証の方法やスタイルについて知識を獲得します。次いで主に19世紀半ば以降のアジア経済に関連する史料に触れてもらい、史料の読み方・収集方法について理解してもらいます。歴史とパソコンが好きで、先進国よりも発展途上国の過去と現在に関心がある学生の参加を歓迎します。
- ③ アジア経済史 中国経済史 経済統計 データベース 貿易

■小堀 聡

- ① 専門は近現代日本経済史です。現在はとくに第一次世界大戦期から石油危機前後にかけての開発主義に着目して、戦後日本の特長と問題点の解明に取り組んでいます。
- ② 近現代日本経済史やその隣接諸領域（政治史・教育社会史・科学技術史など）のなかから1年毎にテーマを決め、それに関する論文・専門書を輪読・討議します。近現代史全般に強い関心のある方、史料を駆使した論文を書いてみたい方の参加を歓迎します。
- ③ 経済史 現代史 日本史

■工藤教孝

- ① マクロ経済学の分析手法を用いて労働市場の景気変動を分析しています。特に、サーチ理論を用いて求職活動（＝失業状態）ならびに求人活動をモデル化し、モデルのシミュレーションから得られる統計的特徴をデータのそれと合わせていく活動に力を注いでいます。また、財政金融政策や資産価格に関する理論研究も行っています。
- ② 本演習では、「上級所得理論Ⅰ」の受講を前提として、マクロ経済学の主要論文の分析結果を再現・追試する活動に力を注ぎます。特に、近年発表された最新論文の多くはコンピューターシミュレーションを多用しているため、マクロ経済分析に加えてシミュレーションを自分で行って論文の結果を再現することは、内容を理解する上で大変重要です。数理的・数量的な分析に明け暮れる毎日と一緒に楽しみましょう。
- ③ 動学的最適化、数量分析、労働市場、経済政策、シミュレーション

■國濱 剛

- ① 私の研究テーマはベイズ統計学を用いた経済データ分析です。経済・社会構造は時と共に変化しますが、複雑な事象を正確に捉えるためにはデータを用いた客観的な統計分析が必要となります。経済学的、社会学的な情報を持つ大規模社会調査を分析するために、ベイズ統計モデルの新たな構築と、マルコフ連鎖モンテカルロ法というコンピュータシミュレーションに基づくパラメータ推定方法の開発に取り組んでいます。
- ② 統計分析を行うためには、確率や線形行列などの数学知識と、Rなどのソフトウェアを用いたプログラミングが不可欠となります。国際的に定評のあるベイズ統計学の教科書を読み、演習を重ねることで、適宜必要な数学力とプログラミングスキルを身につけていきます。その後、個々の研究テーマに関する論文を読み、実際のデータを用いた実証分析を行っていきます。
- ③ ベイズ統計学、計量経済分析、社会調査データ、マルコフ連鎖モンテカルロ法

■萬行英二

- ① 人びとが健康に生きてゆくためには、どのようにすればいいのだろうか。経済的に豊かになれば、人びとの健康は改善するのだろうか。教育を受けて情報処理能力が向上すれば、健康で長生きできる可能性は高くなるのか。社会的なストレスは健康を害する要因なのか。その他にも様々な要因が健康に影響を与えるかもしれない。これらの仮説について、入手可能なデータは何と言っているのか。健康の決定要因にかかわる仮説について実証研究を行っている。
- ② 社会科学における実証研究の問題点を理解した後（相関と因果関係の違い）、既存の優れた論文がどのようにして、因果関係の立証に迫ろうとしているか考える。修士論文には因果関係の立証を必ずしも求めないが、何か面白い仮説の検証を期待する。
- ③ 健康 実証研究 開発経済 応用計量経済

■鍋島直樹

- ① ケインズとカレツキの学説について、理論・思想・政策の三つの側面からの総合的な再検討を進めている。それと同時に、ポスト・ケインズ派やアメリカ・ラディカル派など、ケインズとカレツキの知的遺産を継承し、そのいっそうの発展をめざしている現代政治経済学の諸潮流の動向にも関心をもっている。
- ② ラディカル派政治経済学に関する基本文献（おもに英語文献）の講読を通じて基礎理論の習得をはかるとともに、参加者各自の研究テーマにもとづいて個別研究報告を行なう。それを通じて、社会的コンフリクト・権力・支配などの政治的・社会的要因のはたらきが、資本主義経済の動態および構造変化においていかなる役割を演じているのかについての理解を深めたい。
- ③ 政治経済学 経済学史 ケインズ カレツキ ポスト・ケインズ派 アメリカ・ラディカル派

■長尾伸一

- ① 現代人の考え方の基礎を形作った近代思想史を、経済学や社会科学の歴史を中心にしながら再検討しています。とくに近代科学の形成と、それによる宇宙観の転換がどのような影響を現代の社会観に与えているのかという問題に注目して、18世紀のニュートン主義と社会科学の形成の関係を調べています。
- ② 演習では近代ヨーロッパ思想から現代思想にいたるさまざまな問題を、参加者の報告を中心にしながら勉強していきます。とくに近代イギリス思想史、現代ヨーロッパ経済思想、現代科学思想が大学院での研究のテーマになりますが、その他の分野も参加者の関心に応じて取り上げます。
- ③ ニュートン主義 経済学方法論 18世紀 スミス 現代思想 科学思想

■中村さやか

- ① 私の専門は医療経済学です。医療の現実を理解しよりよい政策を考える上で、ゲーム理論、特に情報を持つ人と持たない人とのかけひきについての理論モデルと、データから物事の因果関係を検証するマイクロ計量経済学が、非常に有益だと考えています。具体的には、医療供給者の行動、所得と健康、避妊法選択、等について研究してきました。現在は体型の決定要因についての研究を行っています。
- ② 数学的理論モデルと統計分析の基礎を確実に理解することを最も重視します。1年次はマイクロ経済学と計量経済学の演習問題を解き、また、国際的に定評のある医療経済学のテキスト（Phelps, Health Economics; Sloan & Hsieh, Health Economics等）を論読します。2年次には個人々の研究テーマに応じて論文の論読を行います。
- ③ 応用マイクロ計量経済学 医療経済学 ミクロ経済学

■根本二郎

- ① 種々のデータ解析手法による国、産業ないし企業の生産／費用構造の分析と、それに関連する経済政策の定量的評価。特に、現在は次のような問題を扱っている。
 - 1) 計量経済学およびOR的手法による生産効率計測法の開発
 - 2) 公益事業（電力、電気通信、鉄道）の費用構造の計測と、その産業組織論的特性（規模の経済性、範囲の経済性など）の分析および生産性と効率性の計測
 - 3) 高等教育機関の評価のための費用構造の計測と、その産業組織論的特性（規模の経済性、範囲の経済性など）の分析および生産性と効率性の計測
- ② データ解析の手法と経済学の理論的フレームワークに基づき、企業行動や消費者行動の実証的研究を行う。ミクロ的な経済主体の行動に限らず、マクロ的な経済予測や政策評価も演習の範囲とする。できる限り早い段階で修士論文のテーマを決定し、1年次のうちに理論的バックグラウンドを固め、必要な分析手法を修得できるよう演習を進める。2年次においては、修士論文研究に集中する。
- ③ 実証経済学 計量経済分析 生産関数 マクロ計量モデル 産業連関分析 経済予測

■ 隠岐さや香

- ① 私の専門は社会思想史と科学技術史です。主に18世紀のヨーロッパを対象に、社会科学への「数学の応用可能性」という認識論的な課題がどのように議論されたのかという思想的問題と、科学の研究者が近代国家の形成期に「専門家」として権威を持つに至る過程という社会史的問題の双方を探求しています。また、後者に関連して、専門家支配とジェンダーの関係、研究環境のダイバーシティといった現代的な問題にも関心を持っています。
- ② 演習では社会科学（経済学、社会学、近代政治思想など）の歴史を扱った基本文献（主に英語文献、希望があればフランス語文献）の講読により、社会思想や社会科学が近代社会の形成に果たした役割についての理解を深めます。また同時に、参加者独自の研究テーマにもとづく個別研究報告を行います。
- ③ 社会思想 18世紀 科学技術史 啓蒙思想 初期近代フランス社会 コンドルセ

■ 清水克俊

- ① 経済的厚生という観点から人々にとって望ましい金融市場・金融システムはどのようなものか、現在の金融市場・システムにはどのような問題があるかということの研究課題としています。特に、ファイナンス理論、金融契約論、マクロ経済学的アプローチによって、金融規制や金融政策について理論的・実証的に分析しています。
- ② ③にあげるキーワードに関する問題を中心に扱います。テキストや論文などから基礎的知識を習得します。また、参加者の研究報告および討論を行います。金融機関または事業会社で金融の実務経験がある方はもとより、金融実務や金融市場・マクロ経済に関心のある方の参加を広く募集します。
- ③ 金融仲介機関 (financial institutions)、金融市場 (financial market)、金融契約 (financial contracts)、金融規制 (financial regulation)、金融政策 (monetary policy)、クレジット・リスク (credit risk)、日本経済 (Japanese economy)、経済政策 (economic policy)、コーポレートファイナンス、デリバティブ

■ 園田 正

- ① 日本、中国、ベトナムの農家データに基づく自己雇用家計行動の実証分析、生産関数の推定、これらの分析に利用する計量経済学的手法（主にミクロ計量経済学的手法）を研究テーマとしている。
- ② 1年次では、テキスト、参考書、関連論文の輪読により、関心のある実証モデルの分析法を学ぶ。2年次では、1年次に学んだ方法を利用して修士論文の作成を進めてもらい、演習での報告を通じて完成をめざす。
- ③ 農家モデル ミクロ計量分析 生産関数

■ 玉井寿樹

- ① 公共経済学を専門としています。特に、公的資本と経済成長について研究をしてきました。現在は、不確実性の下での公的資本の最適供給について研究をしています。
- ② 一年次は公共経済学の基本文献を輪読します。二年次は各自の研究について報告し、修士論文を作成します。
- ③ 公共経済学 公的資本 経済成長

■ 田村 彌

- ① 情報の非対称性に起因する市場や組織の非効率性を軽減するために、どのような制度設計が望ましいか理論的な研究を行っている。特に、中央銀行による情報開示や組織における情報共有など、利用可能な情報をコントロールすることで意思決定者の行動に影響を与える情報環境の制度設計問題に取り組んでいる。
- ② 本演習は情報の経済学に関連するトピックについて基本的な内容の理解を目的にテキストや論文の輪読を行う。具体的には参加者の関心に応じて、契約理論や組織の経済学の基礎、あるいは金融経済学や政治経済学への応用などを扱う。また、修士論文の執筆に向けて参加者各自の研究報告を行う。
- ③ 情報の経済学 契約理論 金融市場 企業組織

■立石 寛

- ① 経済均衡理論における変分問題、非線形（多価）作用素によって定義される発展方程式と、それを制約に含む変分問題、非線形積分作用素の解析的性質、Radon測度の積分分解、無限次元空間に値をとる関数が作るSobolev空間の関数解析学的構造。
- ② 本演習は、経済現象の数理構造に関する理解を深めることを目的とする。そのために、数理経済学におけるいろいろなトピックに関し演習を行うと同時に、位相空間論・積分論・確率論・微分方程式論・関数解析学といった、数理経済学の理解に不可欠な数学用具に関しても演習を通じて受講者の理解に資したい。
- ③ 数理経済学

■薛 進軍

- ① 開発経済学の理論研究と途上国の経済発展の実証分析をしています。開発経済学（Development Economics）は経済成長（Economic Growth）には含まれない問題を研究する学問です。成長を「量」というなら、開発は「質」といえます。私は主に「質」を重視する開発の視点から貧困、所得格差、労働移動、気候変動、環境汚染等の問題をテーマにし、調査・研究を行っています。また、アメリカ・ノルウェー・中国・オーストラリアとの国際共同研究のプロジェクトとして、「グローバルバリューチェーンにおける炭素排出および環境問題」の調査研究を実施しているので、ゼミ生の国内・海外での現地調査、共同研究および国際会議に参加させることも予定しています。
- ② 演習では、開発経済学の理論、実証分析の方法、および現地調査の手法を習得したうえで、上述のテーマを選んで研究を行います。習得した理論と自主研究の展開を促し、学位論文の課題に結び付く研究指導を進めます。研究者・公務員・企業の経営人材および国際機関で活躍できる人材の育成を目標とします。海外研修、国際交流、学会での発表の機会が多く、院生は多国籍で活発であることは本演習の特徴です。
- ③ 開発経済 経済発展 所得格差 環境問題 労働移動 中国経済 東アジア

■柳原光芳

- ① 世代重複モデルによる経済発展に関する理論およびシミュレーション分析。特に、次の3つの点を中心に現在は研究をすすめています。
（1）教育メカニズム（公教育・私教育などの教育制度、あるいは中央・地方政治による教育供給）が経済厚生あるいは経済成長に与える影響についての分析、（2）日本経済に関わる財政シミュレーション分析、および（3）世代重複モデルそのものに関する研究。
- ② 演習は、数学の基礎的知識を前提とした上で、参加されるみなさんの興味関心に基づいて、財政、教育の経済学、マクロ理論の論文の輪読を進めていくというものです。疑問点については徹底的に討論し、参加されるみなさんの研究の一助となるような演習を目指していきたいと思っています。
- ③ 世代重複モデル 教育 人的資本 経済成長 中央・地方政府

■柳瀬明彦

- ① 国境を越えた経済的取引（貿易や資本移動）に伴う企業や家計の意思決定や政府による政策決定に関する諸問題を理論的に研究しています。最近は、特惠的貿易協定と非関税障壁の戦略的決定、公共インフラの蓄積と貿易、資源・環境問題と貿易などの研究テーマに取り組んでいます。
- ② 国際経済学や応用ミクロ経済学分野における基本的な文献の検討を通じて、問題の理解とともに分析手法の習得を目指します。そのうえで、各自の関心に応じて研究テーマを設定し、先行研究のサーベイを通じて研究テーマに関する理解を深めるとともに、自らの研究成果の発表とそれに対する討論を通じて、研究の更なる発展を目指します。
- ③ 国際経済学 応用ミクロ経済学 経済動学

産業経営システム専攻

■江夏幾多郎

- ① 人事管理や働くことについて、社会学的・社会心理学的な観点から分析しています。特に、処遇や雇用における「公正」という概念が企業や社会でどのように定義され、それが人事制度というレンズを通じて個人や組織の行動にどう影響するのかについて研究してきました。その観点から「成果主義」「正社員と非正社員の間の均等処遇」「人事部の位置づけや役割」というものに具体的には着目してきました。
- ② (1) 研究報告、(2) 文献輪読、から成り立っています。(1)については、参加者同士での討議をもとに、初年度に研究課題の設定、修士論文の実際の執筆を目指します。(2)については、具体的な内容や言語については参加者の問題意識や理解度を反映させて決定します。「手垢のついた、汗臭い」データに基いた理論・論文の構築に関心がある方の参加を希望します。

学生と教官の双方にとって、研究上の関心・方針の面での乖離は望ましくありません。入学試験の際には、皆さんの学力のみならず、私が提供できるリソースが皆さんのニーズに本当になっっているのかどうか判断します。皆さんとしても、事前の情報の収集や発信をなるべく行ってください。関心領域についての文献や資料を一定以上読み込み、何らかの持論・仮説を持っていることは、受験・入学に際しての当然の前提です。
- ③ 人的資源管理 労働意識 フィールドワーク

■樋野 励

- ① 生産システムの仕組みを理解し、産業のより良い発展のために研究を行っています。世の中には様々な生産システムがあり、先人達の多種多様な工夫と努力の上に成り立っています。その動きは留まることなく、これからも人々の生活様式の変化に追随し、ときには牽引するために生産システムはその姿を変えていくに違いありません。そんな変幻自在な生産システムには、核と成り得る基本的な仕組みがあると考えています。私はその核となる仕組みを解き明かすことで、これからの我々の生活や社会を支えていく生産システムの発展に貢献したいと考えています。
- ② それまで慣習的に行われている工夫、たとえば棚の設置や迂回路の利用など、直感的には正しいと感じていても、問われるとうまく説明できない生産上の方策はいくらでもあると思います。そういう何気ない疑問に答えを見つける過程に新しい知識の獲得があると考えています。私自身は、スケジューリングと呼ばれる最適化問題を扱った所に研究を行っていますが、手法はこれにこだわる必要はありません。論理的な思考を常に行うように心がけることを要望します。
- ③ スケジューリング、数理モデル、最適化、シミュレーション

■犬塚 篤

- ① ミクロ組織論、なかでも実証データをもとにした数理解釈を得意とし、組織現象のメカニズムやそれに伴う組織行動の変容等を、計量的に解明(表現)することに強い関心をもっています。特に、知識の共有や移転、組織内意思決定、異組織・技術間の統合や連携等に関わる理論的問題を、数量化技法やネットワーク技法等の統計的・工学的アプローチによって明らかにしようとしています。
- ② 当研究室のゼミ生は、何らかの実証的研究に取り組んでいただきます(文献資料だけに基づく理論研究は取り扱いません)。研究の遂行にあたっては、学術的知識のみならず、現場からデータを収集する実践力も必要となります。問題意識やデータ入手の確実性という点では、社会人学生を歓迎します(指導教員も実務家出身です)。

研究テーマについては、実証研究であれば特に問いません。指導教員の専門領域は、知識マネジメントや経営組織論ですが、テクノロジー・マネジメント(技術経営)、知的財産マネジメント、サービス・マネジメント、経営戦略、人材管理等の幅広い研究領域を扱うことができます。
- ③ ナレッジマネジメント、ネットワーク分析、特許分析、技術経営、サービス・マネジメント

■仙場胡丹

- ① 広く会計学を研究範囲としているが、経済主体の経済的な影響（例えば財務情報の有用性の側面）を数量的に考慮しながら、会計システムの構築（例えば国際会計基準の導入の是非問題）を提言していくことは、現段階の私の研究テーマである。また、「監査論」講義を担当していることもあり、監査研究領域についても注目している。
- ② 必要に応じて、会計学の文献（日本語と英語）を輪読する。そして、参加者には自分で研究テーマを決めてもらい、研究報告を行ってもらおう。
- ③ 会計学 財務会計 監査 会計情報 国際会計基準 実証分析

■木村彰吾

- ① 会計と経営が交わる管理会計の領域で、以下の問題について現在研究を行っています。（1）日本のものづくりのマネジメントと整合する管理会計のあり方（2）組織にとって望ましい行動をメンバーにとらせるためには、どのように管理会計システムを設計・運用するとよいか。（3）日本の管理会計はどのように生成してきたか。（4）企業間管理会計。
- ② 実務経験のある方は、実務で体験した問題を理論的に考察し、解決するための考え方を身につけることを目標とします。実務経験のない方は、管理会計、経営戦略等の文献サーベイに基づいて、関心のある問題を取り上げ、その問題について学術的な論文を書くことを目指します。演習に参加する上で基本的な会計の知識を有することが望ましいが、そうでなければ必要に応じて教員がレクチャーします。
- ③ 管理会計 マネジメント・コントロール 企業間管理会計 戦略的コスト・マネジメント

■宮崎正也

- ① 日本企業の競争力・競争優位性を、どのようにして確保し、保持していくのか？そのための戦略を「資源に基づく企業観」「組織能力論」「アーキテクチャ論」「イノベーション論」「プロパガンダ活動」といった概念的な枠組みを活用して研究しています。ものづくり・新製品開発の具体的な事例を取り上げて、フィールド調査します。現実の企業活動の観察から理論仮説を発見・構築し、それを自ら実証していくのが、私の研究手法です。
- ② 「資源に基づく企業観」「組織能力論」「アーキテクチャ論」「イノベーション論」「プロパガンダ活動」を議論している主要文献を読み、基礎概念を理解します。参加者は、それらを批判的に吸収し、ご自身の研究に役立たせてください。また、実際の企業活動で観察された事象をケース・スタディーにまとめて報告してもらい、全員で議論する機会もつくりたいです。
- ③ 経営戦略 イノベーション コミュニケーション研究

■中島英喜

- ① 証券投資と資産価格形成に関する実証分析およびモデル選択。社会的選択の観点に立った公的主体（公的年金や企業年金等）の投資規範評価。投資信託等の投資委任市場の均衡分析。
- ② 修士論文に関連する分野について各自の研究報告を行う。また、これら研究に必要な知識を得るために専門書や論文の輪読を行う。
- ③ 証券投資 資産価格 リスク制御 モデル選択

■中屋信彦

- ① 旧東側諸国の市場経済と企業経営について実証的な研究を進めています。「社会主義市場経済体制」とはそもそも如何なる経済体制であるのかを主要関心事とし、その構造や実態を企業という経済活動の実際の担い手の水準において把握する研究に取り組んでいます。
- ② 演習は、各種の改革論争や企業調査報告書の輪読、参加者各自の調査報告を中心に進めます。
- ③ 比較経済体制 比較経営 移行経済 国有企業改革

■野口晃弘

- ① 企業外部の利害関係者を報告対象とする財務会計、特に資本会計を研究テーマとしている。具体的には新株予約権付社債などの条件付持分証券の会計や業績連動型の報酬制度の一種とされるストック・オプションの会計について研究している。海外の研究者とは国際会計に関する共同研究を行っている。
- ② 制度会計及び国際会計に関する論文執筆能力を高めるため英語でも演習を行う。会計学と会社法の学際的研究が一つのテーマであり、国内外の研究集会での研究報告を目標とする。
- ③ 財務会計 制度会計 国際会計 国際財務報告基準 会社法

■小沢 浩

- ① トヨタ生産方式を中心として、日本企業における原価管理の手法について研究している。
- ② 理論を通じて実務や事例を促え直すことで、経験や観察だけからは発見されない問題点や問題解決の糸口を見つけることを目標とする。そのために、演習では、文献の輪読と討論を通じて基本的な理論の習得を目指す。
- ③ 原価管理 原価計算 生産管理

■高橋秀徳

- ① ファイナンスに関する実証研究。ベンチャーキャピタル（VC）、新規株式公開（IPO）やアンダーライターとの関係といったベンチャー企業のファイナンスに関すること。また、投資家心理が資産価格に与える影響など。
- ② ファイナンス分野のトップジャーナルに掲載された論文や掲載される可能性の高いワーキングペーパーを読み議論する。研究テーマによっては、ファイナンスのみならずアントレプレナーシップやマネジメント分野の論文も読む。よい論文を読むことを通じて課題設定、分析方法や論文の書き方を学ぶ。
- ③ Corporate finance; Entrepreneurial finance; Empirical analysis

■角ヶ谷典幸

- ① 日本および世界の会計基準やその周辺制度を題材にして、各国の会計・監査・ガバナンスシステムについて研究している。最近はとくに会計制度や会計人の判断力の多様性に関心があり、それが国際財務報告基準（IFRS）へのコンバージェンスに及ぼす影響を与えているのかについて研究している。
- ② 会計制度の多様性あるいは世界の会計人の判断力の多様性に関心のある方々の参加を希望する。英語による論文執筆およびプレゼンテーションも歓迎する。
- ③ 経営分析 財務会計 国際会計 国際財務報告基準（IFRS） ジャッジメント 実験会計学

■山田基成

- ① 企業におけるモノづくりならびに技術のマネジメントに関心を持っており、近年は新事業を立ち上げる際の事業モデルの構築と技術力の活用に関する研究を行っている。
- ② 技術のマネジメントに関する日米欧の諸研究に関する専門文献を輪読し、討論する。演習の参加者には毎回、英語を中心とする論文を全員が事前に必ず読み、討論にて発言することを義務づける。
- ③ 技術のマネジメント 事業モデル イノベーション戦略

